

大学院夏季入試説明会 心理学を受験する予定の皆さん

○各専門分野の入試科目の説明

募集要項を参照のこと。

○最近数年間の合格者数

2015年 1人

2016年 1人

2017年 8人

2018年 2人

2019年 6人

2020年 4人

○各専門分野の教員紹介

横澤一彦 教授

視覚的注意やオブジェクト認知、感覚融合認知や共感覚などの認知心理学的研究を行っている。ただし、来年度の修士学生の受け入れ予定はない。

今水 寛 教授

認知神経科学の観点から、人間の基礎的な学習機能を研究。特に、運動学習と認知学習などを実験心理学と脳科学の手法を組み合わせ調べている。詳細は、研究室ホームページ (<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~imamizu/>) を参照。

村上郁也 教授

人間の視知覚の緒特性に関して、心理物理学的実験等を通して明らかにしていく。運動視、空間視、時間知覚、また視知覚と眼球運動や注意との関係など。詳細は、研究室ホームページ (<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~ikuya/>) を参照。

鈴木敦命 准教授

心理学実験を通じて人物認知や心のエイジングなどを研究。最近の主要な研究テーマは顔にもとづく特性推論。詳細は、研究室ホームページ (<https://sites.google.com/site/atsunobusuzukilab/>) を参照。

○修士修了者の就職状況の説明

大部分の学生は博士課程に進むが、修士課程修了者が、一般企業もしくは官公庁に就職することは少なくない。博士課程修了者は、学位取得後に大半は研究者、教育者になり、東京大学をはじめとする全国の大学や研究所で、心理学関係の研究・教育に携わっている。海外の大学の教授になっている人も少なくない。

○最近の研究室による研究公開活動（シンポジウムや講演会など）

関連する主な国内（日本心理学会、日本基礎心理学会、日本認知科学会、日本神経科学学会など）や国際学会（Vision Sciences Society、Psychonomic Society、Human Brain Mapping）などで、定期的に研究成果を発表するとともに、シンポジウムなどを開催している。

○その他

研究室の概要は以下のページを参照 <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/psy/labo/overview/>

大学院生は、ゼミなどの授業に出席するだけでなく、指導教員の指導の下、研究テーマに関連のある論文を自ら探して読み、実験をおこなうための技能を身につけ、実験計画を立て、実験を実施することが求められる。その研究成果を「大学院研究会」（通称、正式名称は「心理学基礎論」という授業、国内外の学会、国内外の学術雑誌において発表することを通じて、自身の研究の意義や面白さを正しく分かりやすく伝える能力も習得してもらう。